

## 議事録

件名	明治大学・川崎市 黒川地域連携協議会 第1回 農産物等研究専門部会
日時	平成26年5月26日(月)14:00~16:00
場所	明治大学黒川農場 本館1階 1-102 会議室
出席者	明治大学黒川農場 佐倉特任教授 セレサ川崎農業協同組合指導相談部 木目田主任 神奈川県農業技術センター横浜川崎地区事務所 後藤勇主査 花き・加工労働チーム木下洋子 川崎市麻生区役所企画課 蛭川泰行 川崎市経済労働局農業振興センター農業技術支援センター 小川主任 明治大学農学部 元木准教授 (事務局) 川崎市経済労働局農業振興センター農地課 古山保全係長 コンサルタント(URリンクージ 正司主幹、遠藤課長補佐、河西係長、岸本)
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回農産物等研究専門部会 次第</li> <li>・第1回農産物等研究専門部会 座席表</li> <li>・第1回農産物等研究専門部会 メンバー表</li> <li>・里地里山保全利活用専門部会 第1回専門部会 説明資料(案)</li> </ul>
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農産物等研究専門部会の方向性についての確認</li> <li>・今年度の取組み内容等に関する検討</li> </ul>

### 1. 開会のあいさつ（川崎市）

### 2. メンバーの紹介（自己紹介）

### 3. 座長からのあいさつ（佐倉特任教授）

【座長】 黒川の地域は、緑が非常に豊かに残っている数少ない地域である。この場所に農場を開設するにあたっての大きな理念の一つとして、地域・環境に共生をすることを謳っている。今回の取り組みが、黒川地域に限定している所には意味があり、川崎市の農業は、小さな農業であるが、黒川地域の生産力はかなり大きなものがある。市民の食の一部を担っているという意味で重要な地域である。市も地元の方々も「この環境を何とか残していきたい」という願いは一緒である。この環境を残していく為には、そこでの農業生産が活気が帯びたものでなければならない。その中で、この専門部会は非常に重要な役割を果たしていかなければならないと考えている。

### 4. 農産物等研究専門部会の方向性についての資料説明（コンサル）

### 5. 今年度の取組み内容等に関する検討

【農地課】 黒川で農家の方に作りたい作物の考えがある中で、「明治大学が来て良いものが作れるようになった」という形にしていければいいと考えている。実際に「このようなものを作ろう」という提案があれば、明治大学農場、農業技術支援センター、農地課等で栽培し、内容を深めたい。

【神奈川県】3部会ある中で、この部会は「モノを作り出す」というのが命題のようである。最終的に誰がつくるのか。

- 【農地課】 将来的には農家の方に行って頂きたいと考えている。農家の中で受け入れてもらえるものを提案し、次につなげたい。
- 【神奈川県】「岩ちゃん豆」など試験栽培を行う前に、農家の方に食べてもらうことが必要ではないのか。
- 【農地課】 「岩ちゃん豆」に関しては、既に農家の方が作られ、黒川で昔から作られている豆である。生の豆でも、ゆでて食べても非常に美味しい。
- 【神奈川県】 既に地場にある郷土の作物であるなら、現在作っている方を中心に、展開を考えていくほうがよいのではないかと。生産体制や加工品、販売など先のイメージを持って行った方が良い。
- 【農地課】 本当に良いものなので、名前を付けてセレスモスで販売すれば、地域特産物として認知されて広まっていくのではないかと考えている。
- 【農地課】 他に何か新しい作物はないか。
- 【神奈川県】 野菜で考えると種苗メーカーのF1 品種というものがある。加工品として変わったものとして、「トマトのアイス」がある。野菜としては変わっていないけど、商品として変わったものを作るという形もある。「施設トマト」は技術力も高く、生産量のまとまりとしてもある。ほかには、麻生区で初のイチゴ農家ができた。
- 【神奈川県】 地域のブランド開発では、市場の広がりや計算をする。黒川地域にどのくらいの経済効果を目指とするかなど計画する必要があるが、それについてはどのように考えているか。
- 【農地課】 現在の「シカクマメ」や「岩ちゃん豆」はあくまでたたき台である。実際に栽培している地元の農家の栽培を見学させてもらい、増やしていくという考えはあると思う。
- 【神奈川県】 大学にも関わってもらうのであれば、6次産業的な流れまで考えていった方が良い。そうすれば、NPO法人などの加工専門の所も必要になり、生産者も具体的な形での品質管理が必要になる。そこまで行かないとブランド開発は広がらない。加工品を広めていく際に、いつも突き当たる壁は、生産をしたのは良いけど加工する時に加工する人がいないことや、原料生産が間に合わないという問題がある。
- 【コンサル】 黒川の加工品等は、いきなりそこまでいかないのではないかと考えている。魅力のある加工品となるかという事も含め試行していく段階なのではないかと考えている。誰もがおいしいと思えるものを作っていく事も試行の1つである。今は広がる手前で、広がるものを探っていく事が大切なのではないかと。
- 【神奈川県】 今、神奈川県全体で言えるが、生産から加工販売をする人は沢山いますが、一時加工してくれるところがどこにもない。集団で一次加工が出来る企業があると良いと思い、今立ち上げを行っている。ブランド化はそのように「産業」としてまで考えた方が良い。
- 【神奈川県】 一方、生産の面から見ると、黒川柿生地域ではセレスモスや柿生の野菜生産直売会があり、今言った規模の生産、収穫、調整まで行おうとすると、農家の方は付いて来ないのではないかと。経営に化けてこない品物は、なかなか根付かないと思う。資源としての「人材」を、どう組み合わせるかをコーディネートしていかないと、生産、販売の体系は出来ていかない。
- 【農地課】 例えば3年後を見据え、その組織を立ち上げていくなど、段階を踏まえ行っていくという形では上手くいかないのか。
- 【神奈川県】 どのような提案が出来るかである。その為には、生産で言えば、どのようなニーズがあるかで、経営の1つとしてとらえ「お金はもうからないけど、地域の名前を上げるような事が出来れば良い」という考え方もある。例えば障害者の方が実施している「歯車の会」では、ハーブを作って、そのハーブを使ってソーセージを創るという取組みを行っている。ソーセージ屋が買い取って、市内の居酒屋で使って頂くという事も行っており、早野ブランドのソーセージをつくらうと、取り組んでい

る。

【元木先生】 これまであまり広がっていなかったムラサキアスパラガスを全国的に広めてきた。農産物の広がりについては、1 つは農家の方の受け入れがあるかどうかが重要である。多くの場合、農家の方は売れば飛びつく。今付き合っている農家の方も、若い方を入れて、規模を拡大している方もいる。黒川でどのくらいの規模で、何の野菜を作っていて、どのような事を変えれば、例えば「この品目よりもこちらの品目の方が良い」と誘導出来るのであれば、提案が出来るが、それが分からないと少し難しい。もう 1 点は技術やマニュアルと一緒に提案をしないと農家の方を誘導するのは難しいと思う。

黒川の圃場や農業技術支援センター等で色々な作物を作り、見に来てもらい「これは儲かりそうだからこれで行きましょう」というようにしていけたら良いのではないかな。

【農地課】 落花生やサツマイモについては大規模に観光農園をやっている方もいるが、黒川の農家は直売会が発達してきているので、色々なものを作っている方が多いと思う。まとまったキュウリやトマトを出す方は本当に数が少ない。施設のトマトやキュウリを行っている方は結構いて、そのような場所だと思っている。黒川地区には「黒川上」と「黒川東」という農業振興地域があり、ここは生産緑地とは違い、農業を行っていないかなければならない場所なので、川崎市としても何かしら力を入れていった方が良いと考えている。

【元木先生】 カラーピーマンの普及などを、技術と一緒に儲かるという事を提案してあげれば、小さいロットでも集まる。そこで、加工が出来る位集まる可能性もある。

【農地課】 提案会は、農作物の試験栽培等で何を行ったか報告できれば良いと考えている。先を見据え、NPOを立ち上げるという事であれば、黒川には「援農ボランティア」や早野の障害者団体の方とも付き合いがあるので、そのような方たちに提案していくのも 1 つの手である。どのようにやっていきたいかは、考えていかなければならないと思う。

【区企画課】 麻生区としては、「農と環境を活かしたまちづくり」を推進していく中では、6 次産業を終着点として取り組んでいきたいと思っている。その為の支援も行っていく。「この野菜なら、この地域にふさわしくて、このようなものが売れる」という当てを付ける方法は何かあるのか。

逆に言うと、JAへ農家の方から相談を受ける品種で、相談が多くなってきているものは、その品種のニーズが高まってきているのではないかな。そのような所からシーズを拾ってくるというやり方はあるか。

【神奈川県】 様々な作物や品種が誰でも買えて、黒川の方たちは割と色々なものを作っている。誰も作っていないようなニッチの部分、そここの地域の人にしか買えないというもとなると、地域でなかなか生産量は増えないし、岩ちゃん豆やノラボウ菜しかないのではないかな。

【区企画課】 今は細々とやっている物の中で、もう少し作り方を変えると売れるとか、生産量が増えるという事を検討していくのではないかな。

【神奈川県】 何処がハードルとなるかも、作物によって変わってくる。

【区企画課】 試験的な栽培状況を農家の方にご覧頂いて、簡単に出来るような実例を見せながら普及活動を行っていくのが、収穫量を増やすのに最善の道ではないかな。

【元木先生】 多くの品目の中から「これは行けそうだ」というものを、皆さんに来て頂いて見て頂き、広まっていくのであって、やっているからといって全てが広まる訳ではなく、普及出来そうなものを技術開発とセットで出していくことが必要である。

【区企画課】 一方で、地域のものを地域で消費して頂きたいという考え方もあり、近隣の商業施設にヒアリングをかけるというようなやり方もあるのではないかな。スーパーマーケットで売っているようなものがニッ

チのものとラップはしない。普及し始めて、スーパーに並ぶようになるというイメージがある。

【神奈川県】生産から考えていくのか、消費から考えていくのかによってやり方は変わってくる。ただ、直売の野菜で言うと、過剰生産となると、値段が崩れてくるので、自然と生産調整が始まったり、この作物はこの人に専門にやってもらおうという形になっている状態である。

【神奈川県】川崎の農家はお金だけじゃない部分があると思う。儲けが出るのであれば作るのは間違いないが、儲けからなくてもそれほど手がかからなければ、粋と感じて作ってくれる事も多い、直売所の場合も結構そのような部分が多かった。大規模で行うのであれば、お金の面白みが無ければ農家は取り組んで頂けない。小規模で行っている人たちがどの程度関わられるかにもよるが、何かが変わる事によって、今までステージが無かった人たちに舞台を与えてあげないと大きくは出来ない。

【農地課】先を見据えた中でやっていきたいというのはあるが、とりあえず今年何を行うかを考えていく中で、受け皿となるような団体があるのかを調べたり、実際に行う事が出来るかを確認する作業は行っていきたい。後は実際にどのくらい作る事が出来るのかという問題もあると思うが、その為にもとにかく作ってみなければならない。

【神奈川県】4haに何十人規模で作った場合、どれだけの収入があるという数字を出しつつ、更にそれを加工する為に、どのような団体が必要で作業をしてもらう事で、どのような事業が上手くできるというイメージを、規模を変え2案位作り、農家の方やNPOの人たちに聞いてみてもらったかどうか。その時に実際に行ってもらった人の感触を見ながら、どういう形ならやれるのかを探って行ったら良いのではないかと。

【農地課】加工に関しては、そのような検討も行って、農地課で「岩ちゃん豆」の育成を行う。黒川には「援農ボランティア」というものがあり、その圃場で行くと農家の方も見て頂けるので、種をもらって育ててみようと思う。

【神奈川県】大学とか学生が関わるとすると、どのような関わり方が出来ると思うか。

【佐倉座長】販売や加工には興味を持つと思う。農学部の中にも自主的なグループとして、農場の生産物をもっと売っていく事を考えていこうという学生の動きがある。そのような動きに上手く接点が合えば、何かできるかも知れない。

黒川という地区に限定して考えると、黒川には産業としての農業は無くなってしまっているのではないかと思う。多くの黒川の人たちは、産業化には見切りをつけてしまった地域ではないか。その中で、この農産物等研究専門部会の役割は、黒川の人たちが興味を示し、活性化する事を提案できるかが重要ではないか。軸を少し変えて考えると、少し違った考え方も見えてくるのではないかと。今まで挙げた事もどこまで出来るか考えていく事は必要だと思うが、資料の最初には「農」の発展という事で書いていただいております、そのような事を色濃く出した上で、ただ単に「儲かる」「儲からない」という事ではない軸についても、やって行ったらどうかと思う。この地域で高齢者の方が農業をやめてしまうなかで、セレスモスや農場が出来た。セレスモスができて、復帰した農家の方が非常に多かった。1人の人が買い物するくらいの量でも売れる事ができるという事で、活気づき、それまで農業をやめていた人たちも再開するようになった。セレスモスの開設はそのような起爆剤として、農協として非常に良い事を後押ししたと感じた。

農家アンケートで面白いと思った事がある。それは、農場の開設の際に農家の人は市民講座を行い市民の方に農業を教えるという事にすごく危機感を感じ、すごく反発をしていた。しかし、最近「市民農園募集」という看板が増えている。このアンケートを見ても、半数以上の人が興味を示している。そう考えると少し変わってきているのではないかと思う。その時に生産と上手く結びつ

ける事を伺えると、また違った側面が見えてくるのではないか。「岩ちゃん豆」を市民菜園で作り、自分で食べるにはすごく美味しいし、他にはないから、市民菜園にすれば「岩ちゃん豆が作れる」など小規模でもいくつかの特徴のある作物が作れるようにすれば、「黒川の市民農園では、八百屋さんでも、セサモスでも売っていないような面白い作物が作れる」という付加価値化していくことも1つの切り口だと思う。そのような形で、高齢化した農家の方も、若い人、市民の方と接する事によって活気づくという面から見ていくと、どんな作物を扱っていくのかを考える糸口になるのではないかと感じました。だからと言って、専門的に農業を行って言っている農家の方たちの事も考えなくては行けないが、底辺としての農業、広がりとしての農業を支えていく人たちが活気づかないと上の方も活気づかないという事で、その提案をしていくことが出来れば、他のこのような検討を行っているものとは違う検討が出来ると思います。

「シカクマメ」の話も大量に味噌を作って売るといよりも、自分で作るという方法もあるのではないかと考えた。個人的には、産業として考えると黒川の農業は難しいところがありますし、行き詰るのではないかと思う。

【区企画課】「市民農園」に関しては、草の種が飛んでくるとか、車の止め方、人の敷地に勝手に入ってくるなどの苦情がある。その他、来訪者が多くなると自分の作物が荒らされるのではないかが心配とか、ゴミを捨てていかれてしまう、片づけをしない等のマナーについての苦情がある。

【農地課】しかし、以前と比べると「市民農園」が増えてきたのには驚いている。

【佐倉座長】活かし方だと思う。今言われたようなデメリットの所をカバーが出来れば、まず、労力の問題が無くなる。そういったところが、1つの軸としてあっても良いのではないかと思う。

【区企画課】イメージ的には少量多品種のプレミアを付けて、特定のレストランに行かなければこの野菜は食べられないというような感じになるのではないか。

【佐倉座長】「市民農園」は作業の楽しみも含め、自分で食べるものをつくるというものであり、お金を払って農作業をしたいという人達である。その人たちにとっての魅力は黒川の自然であり、黒川の持っている資源そのものである。その認識から言えば、その魅力を維持しつつ、そのような人たちも受け入れていき、それを牽引していく専業農家もいるという形で、層の厚い様々な形の農家の人が集まって、1つの力となって黒川の農業が成り立ち、その中に一部市民が入ってくるイメージである。地域のレストラン等で黒川地域でのメニューをつくるという可能性もあると思う。そうなってくれば、「私たちの作っている野菜を食べている人たちがいる」という形になってくる。

【農地課】最終的にまとめる時に市民農園を入れるという事はあるが、いきなりここで市民農園を推奨するのは難しい。

【佐倉座長】昨年まで市民農園の看板は1つもなかったが、今では4つも出来ている。それを見ると、推奨する訳ではなくても、動きとして、これだけ住宅地が近くにある中で、需要があるのだと思う。農産物を考える部会で、いきなり「市民農園」を出すのは難しいとは思いますが、動きとしては現実として有るので、上手く取り入れられれば良いと思う。

【農地課】農産物等研究専門部会では、地域農産物とか、郷土作物を農家の方につくって頂きながら進めていきたい。加工品や新規作物を秋口までに出来る範囲で行い、大規模に加工品を行う際にはどう行かうかについては、他の部署と話をし、次回提案するという形で話は出来ると思う。しかし、秋まで何も行わない訳にはいかないの、新たな作物を農業振興センター、農地課、農業技術支援センターで育て、その結果の報告をしたいと考えている。加工品についても、シカクマメを使った味噌など短期間で出来るのであれば、農業支援技術センターの加工室や明治大学等で行って、秋の報告をさせて頂きたい。

- 【セレサ川崎】JAも色々事業を行っている中で、「農家の方の話を聞いていない」という意見を頂く事が多い。息の長い事業にしていきたいと考えていると思うので、色々な人の意見を聞く事が必要だと思う。
- 【神奈川県】3つの部会はずごく相互乗り入れをしていて、今ここに出てきた話題は、他の部会に反映させた方が良いと思うし、逆に他の部会でこんな作物や加工品があるかどうか、という話をこちらの議題にも反映させるべきではないか。
- 【農地課】6月の下旬には3つの部会がまとめた協議会を行う予定である。
- 【神奈川県】栽培や種について、種類を決めない方が良いと思う。
- 【農地課】「シカクマメ」や「岩ちゃん豆」など全体の中でやる一つの案としており、大学と連携している部分もふまえ、進めたい。
- 【コンサル】試行という中で、地元の方の意見を聞くのも大切だが、試しに行ってみる事も大切である。やりながらお互いに考えるという事も相互理解を深めていくためにも必要である。
- 【佐倉座長】農産物等研究専門部会はものを作る部会であるため、最初は、産業化の為の品種選択であっても、小規模向けとして、作物の検索をするという事で、先ほど上がってきた「シカクマメ」や「岩ちゃん豆」がある。いくつか出来るところでやっていながら、試行錯誤していく。初年度については、結論的なものを先に考えるのではなくて、農家の人の反応も見ながら行っていくという事で良いのではないか。
- 【神奈川県】もう少し作物の品種を挙げておいた方が良いのではないか。アイデアを農家の方からも汲み取って、やってみてふりかきをかけてはどうか。普通のトマトを作り、それをアイスにする事で特産物とすると考えのなら、アイス向きのトマトもあるかも知れないので、そのようなものを試していても良い。
- 【佐倉座長】加工を想定するにしても、もう少しバリエーションがあった方が良い。
- 【神奈川県】1年しかない中で、栽培成果を上げるのであれば、失敗するかも知れないというようなものとPR出来ないのでは、誰が作っても失敗がないくらいの栽培マニュアルになっていないといけな。加工する立場の人でもふまえ、いくつかパターンを作った方が良い。
- 【農地課】「ノラボウナ」も良いと思う。残っていくという意味では、とても有意義だと思う。
- 【区企画課】麻生区では古沢で市民ボランティアによる菜の花栽培をして頂いている。その菜の花の菜種油を搾り、明大の学生と一緒にスイーツをつくる時の素材として活用していこうとしている。その菜の花の栽培地を黒川で行う事が出来れば、もっと収穫量が上がると考えている。そのような取組みも始めたので、取り組む種類を増やす為にも候補に入れて頂ければと考えている。
- 【佐倉座長】「カイグア」と「ハッシュウマメ」が面白い。「ハッシュウマメ」はスイートコーンのコンパニオンプランツとしても有名で、スイートコーンと一緒につくとスイートコーンがよくできる。
- 【神奈川県】施設のトマト農家が多く、ショウナン〇〇という中玉の加工用のトマトを素材の1つに入れてもいいのではないか。
- 【木元先生】ミニニンジンはこちらで栽培を行っており、出てきたデータを学生が整理しているので出す事も出来ると思う。
- 【JAセレサ】作物の選定の際には、農家の方の意見を直接聞いた方が良いと思う。農家の方が何に困っているかなどに合わせて作物を選んで行った方が、息の長い事業になると思う。
- 【農地課】農家の方へのヒアリングは次回報告する。今回今言われた作物については秋口までに作って、この部会の中だけでも発表出来る等にした。当初神奈川県の方からご意見のありました意見については、関係者に相談させていて、何パターンか紹介していきたい。農家の方の不利益になるような事はしない方向で進めていく。

【神奈川県】 将来関わるだろう人の意見が少しでも聞こえてくると、この部会も安心して進むことができる。

## 6. 総括

【佐倉座長】 短期間で結論が出るものではないので、やりながら、検討をしながら進めていきたい。

## 7. 閉会のあいさつ（佐倉座長）

以 上